

Smile & Heart

浜田医療センター情報誌 **スマイル&ハート** vol.60


TAKE FREE

ご自由にお持ち帰り
ください

2021年 秋号

ホームページ <https://hamada.hosp.go.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/hamadamedicalcenter>

 浜田医療センター で検索！

特集／ **新型コロナウイルス感染症
に対する当院の対応**

呼吸器内科部長 柳川 崇

**コロナと向き合う
～ 看護師の立場から ～**

4階南病棟看護師長 小野 妙子

**治験に参加しませんか？と
言われたら - 治験管理室 -**

看護学校だより



新型コロナウイルス感染症に対する 当院の対応

呼吸器内科部長
柳川 崇

【やながわ・たかし】

- ・金沢大学 1990年 卒業
- ・呼吸器学会専門医・指導医
- ・趣味：ランニング、トレイルランニング、木こり、薪割り、薪ストーブを焚くこと



浜田医療センターでは昨年2月から病院を挙げて新型コロナウイルス感染症の受け入れ準備をしました。発熱外来を開始し熱のある患者様にはとりわけ神経質に対応しました。8月28日からは島根県からの要請により一つの病棟を空にしてコロナ専用病棟としました。専用病棟は4室(のちに6室)の陰圧個室と他の全病室にも陰圧装置を設置しました。当時その全室がいつか満室になるとは予想もしていませんでした。コロナ対応病棟の看護師は防護具の着脱等受け入れのための訓練を何度も行ない、他病棟の応援業務をしつつ患者の発生に備えました。

初めての陽性患者さんの受け入れは昨年9月でした。それから約1年で140名の新型コロナの患者さんを入院治療してきました。入院患者は主に呼吸器内科、総合診療科が担当しましたが、内科系各科、小児科も協力し、発熱外来は全科の医師が応援してくれました。医師・看護師はもちろん臨床検査、薬剤科、放射線、リハビリ、栄養、事務、清掃・洗濯業者など全ての部署の皆さんが支えてくれて病院のコロナ診療は成り立っています。本当に感謝しています。

全国では今まで第5波までの感染者増減の波がありましたが、次第に大きな波になったのはご存じだと思います。当院の受け入れ患者数も次第に増加しました。昨年春の第1波では島根西部での発生は少なく当院も受け入れはありませんでした。その後9月と年末年始の第3波を合わせた入院患者数は10人でしたが、今年4月から6月の第4波では約30人、7月からの第5波では約100人と大幅に増えました。

新型コロナの患者が発生したとき、入院先の病院は島根県の広域調整本部が割り振りをします。今年4月から6月の第4波では浜田市内での感染者はそれほど多くなかったのですが、近隣の市町で発生した方の受け入れ要請が多数あり、当時のコロナ受け入れ病床19床の満床に近くなりました。5月中旬のピーク時には連日新規感染者の入院があり、私達コロナ対応スタッフは緊張の中にありました。もしその頃市内で更に多くの感染者が発生したら浜田市民でも当院に入院できない状況だったと思います。私達は「市民の方々には感染者が増えないような生活をしていただきたい」と願っていましたが、その願いはあまり通じていないと思いました。病院の逼迫状況など市民の方には伝わりませんし、首長や行政から感染拡大防止を意識した生活行動の呼びかけもなく、夜遅く帰宅のために駅前通りを通るときも平時と変わらないほどの飲食帰りの人を見かけました。「浜田では出てないから大丈夫」という空気があったのではないのでしょうか。

第5波では8月に急速な感染者数の増加があり、受け入れ病床を29床まで増やすことになりました。8月中旬には浜田市内でも多くの感染者が確認されましたが、当院が満床のため入院できず他市の病院に入院された方も多数あり大変心苦しく思いました。この頃に医療逼迫を訴える当院の病院長のインタビュー記事が地元新聞に掲載されましたので目にされた方も多いと思います。幸い9月中旬以降感染者数は減少し落ち着きましたが、新型コロナウイルス感染症の流行が今後国内で、世界でどうなっていくのかはまだまだ分からないと思います。本当の終息にはまだ何年もかかるだろうと考えています。

浜田医療センターの理念

医療を通じて

「地域で生きる」を

支援する

基本方針

1. 安全で良質な医療の提供
2. 患者に寄り添った医療
3. 介護、福祉との連携
4. 地域の町づくりに貢献
5. 地域住民と職員の健康増進
6. 持続可能な健全経営

患者さんの権利

- ・ 人格・価値観が尊重される権利
- ・ 良質な医療を受ける権利
- ・ 十分な説明と情報を得る権利
- ・ 自己決定の権利
- ・ 個人情報を守られる権利

当院を身近に知っていただくため公式ホームページ及び公式 facebook を作成しています。一度ご覧ください。

ホームページ

<https://hamada.hosp.go.jp/>



facebook

<https://www.facebook.com/hamadamedicalcenter>



浜田医療センター で検索!

contents

- 2~3 特集:新型コロナウイルス感染症に対する
当院の対応
コロナと向き合う~看護師の立場から~
- 4 認定看護師の活動について
- 5 地域連携室
- 6~9 研修医だより
- 10~11 治験に参加しませんか?と言われたら
- 12~13 看護学校だより
- 14 がん相談支援センターだより
- 15 秋の特別メニュー / 新任医師紹介
発熱による年末年始の受診方法について
- 16 外来診療担当医表

COVID-19は病気として人々の健康を脅かすと同時に日常生活のあらゆる面に影響をおよぼし人類に不自由を強いてきました。世界が協調してこの危機に臨むことを期待しましたがそうはなりません。人々の間に様々な分断を生み国と国との間の非難、政治への批判、感染者や医療者に対する不理解や偏見などが起こりました。本来感染することは不運、気の毒なことではないのに患者・感染者に対して偏見や批判、誹謗中傷が起きたことはとても悲しいことでした。

私はこの人類史上の危機の克服に一呼吸器内科医として最大限の貢献をしたいと考えて関わってきました。看護師たちも同じです。「使命感」とよくいわれますが、心を支えているのはそういう自己犠牲的な心情よりも、やるべきことを当たり前に行おうという「プロ意識」だと思います。

今後再び感染の波が起きるのか、それが今までより小さいのか大きいのか、軽いのか重いのか分かりませんが、新型コロナウイルス感染症の終息は医療者の努力で得られるものではありません。市民、国民、世界の人々が協調して少しずつコロナ終息に向かうことを願っています。

コロナと向き合う ～ 看護師の立場から ～

4階南病棟看護師長 小野 妙子

コロナと向き合う準備と装備

新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の患者さんを昨年9月から受け入れています。一般病棟からコロナ専用病棟へ変更するために、病室には陰圧空調設備を備え、病棟の環境を整えながら対応してきました。

感染対策については、テレビなどで目にされた方も多いと思いますが、患者さんに対応する際、医師や看護師は、「防護服」を装着します。その装備は、①全身を覆う一体型のタイベックスーツまたは、長袖のガウン ②2重の手袋 ③N95マスク ④不織布の帽子 ⑤ゴーグルまたはフェイスシールドです。まさに重装備ですが、コロナは、「飛沫」と「接触」によって感染しますので、私たち医療者が感染しないようにするための必要な手段です。しかし、特にガウンはウイルスが付着、浸透しにくい素材でできており、サウナスーツを着ているような感覚です。看護師は、夏場、内側に保冷剤を入れたメッシュ素材のベストを身につけ、毎日のように、汗をびっしょりかきながら業務にあたりました。

第4波 ～感染への不安と重症化予防に向けた看護～

医療者のワクチン接種が終わって間もない頃で、感染に対し緊張感が高い状況でした。患者さんの症状の変化を予測しながら、医師・看護師間でカンファレンス(話し合い)を行い、コロナの最新情報を学習しながら、知識を深め情報共有を図りました。患者さんは、高齢の方が多く、重症化の懸念に加え、高熱、倦怠感、呼吸困難などにより、今まで普通にできていた日常生活動作ができない状態になる方もあり、筋力回復目的にリハビリ導入など検討しながら支援しました。

また、患者さんの症状の悪化に伴い、治療の選択について話し合いが必要になることもあり、患者さんご家族とをオンラインで繋ぎ、話し合ってもらった場面もありました。そして、退院に向けたカンファレンスを医療チームで行い、安心して退院できるよう環境を整え、継続ケアにつなげることができました。

第5波

～変異ウイルスの脅威に負けない感染防止策に対する手ごたえ～

ワクチン接種から一定期間が経過し、感染に対する緊張感はやわらいできた時期でしたが、強力な感染力をもつ「デルタ株」の流行により、緊張感が一気に増しました。患者さんは、中高年から若年の方が多く、家族内感染により小児を含め、ご家族で入院される患者さんが多い状況でした。いろいろな患者さんと出会う中で、コロナの知識不足や生活制限による不安感、孤独感、感染したことに対する自責の念など、身体症状だけでなく、精神的サポートが必要な患者さんの思いを受け止め、関わることの大切さを実感しました。

そして、多くの患者さんと接する中で、コロナという病気の特徴を改めて理解すると同時に、私たち自身の感染防止策の確かさを実感することができ、看護師としての自信につながりました。

コロナと向き合ってきた看護師の思い

～未曾有の感染症と日常、今後の希望～

医療者である私たちも、皆さんと同じように制限のある生活を送り、感染症への恐怖や、様々なストレスを抱えながらコロナと向き合ってきました。どうしてがんばれたかと振り返ると「使命感」の一言に尽きると思います。この1年間で、ワクチン接種が進み、抗ウイルス療法や抗体カクテル療法に手ごたえを感じ、経口内服薬の開発など明るいニュースも伝えられ、予防と治療が進んでいます。今後、コロナがどのように形を変えてくるのか予測がつかませんが、まだまだ気を抜かずコロナと向き合っていきたいと思います。

最後に、私たち看護師からのお願いです。ワクチン接種を迷っている方がおられましたら、是非、ワクチンを受けていただきたいです。一時的な副反応はあるかもしれませんが、コロナにかかった場合の苦痛や後遺症を考えるとそれに勝るメリットの方が大きいと思います。そして、コロナ禍前の生活に早く戻れるよう一人ひとりが予防に取り組みましょ。

認定看護師の
活動について

新型コロナウイルス 感染症対策活動について

感染管理認定看護師 渡邊 正美

市民の皆様へ
手洗い・マスクの着用で
感染防止に努めましょう。



2019年末に「中国武漢で原因不明の呼吸器感染症が確認」と報道されてから、もう少しで2年になろうとしています。

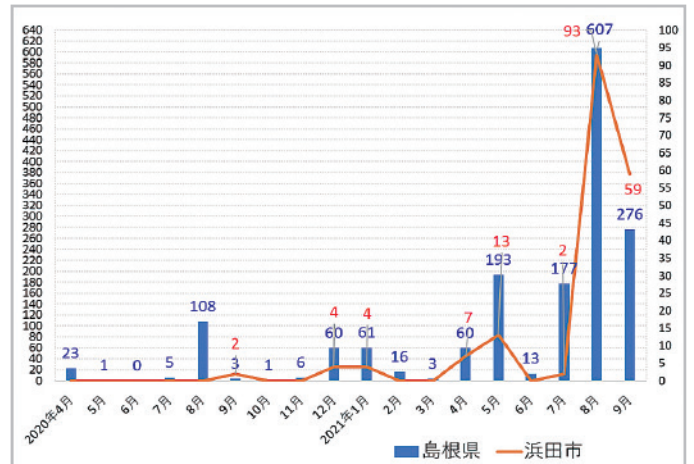
当院では2020年1月から発熱外来の運用を開始し、来院者の問診、検査、重症度の判断など行ってきました。

また感染対策チームでは、発熱外来受診の検査手順の作成と院内各部署への周知、必要な感染防止対策に係る物品の確保と管理を、変化する情勢に合わせながら対応してきました。さらに感染管理認定看護師として、院内各部署の感染管理に関する相談対応や情報発信に努めています。

第1波の流行時には、流通の問題から感染症予防に必要な個人防護具の不足があり、サージカルマスクの使用制限や、手作りのガウンを作成しながら大変な時期を院内一丸となって乗り越えました。

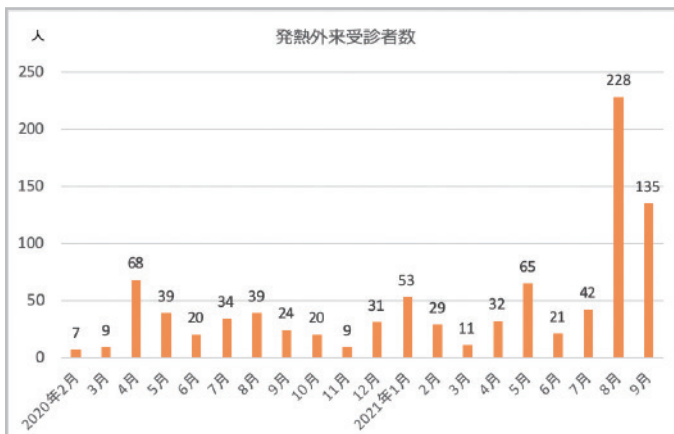
また、昨年の年末年始の発熱外来でのドライブスルー受診体制に向けて、職員全力をあげて訓練も行いました。発熱外来には916人受診しています。【図1(9月30日現在)】

島根県では2020年の4月から感染者が報告され、浜田市内では2020年9月に1例目の報告があり、入院受け入れを開始しました。



【図2】

島根県と浜田市のCOVID-19報告者



【図1】

浜田医療センター発熱外来受診者数

県内の感染状況の特徴としてはクラスターの発生と共に急激に報告件数が増加しています。また今年の7月以降は火力発電所のクラスターとお盆休み等による移動者が重なり、県内も浜田市もこれまでにない感染者数となり、発熱外来受診者も多くなりました。【図2】

10月に入り、緊急事態宣言は解除されましたが、インフルエンザの流行シーズンにもなります。目まぐるしく変わる感染状況の中で、院内感染を起こさないようにこれからも活動していきたいと思えます。



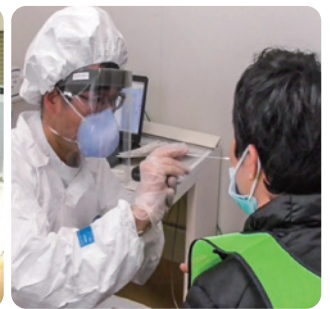
手作りガウンの着用



発熱外来



診察室



検体採取風景



ドライブスルー検査の練習風景





地域連携室



MSWとは

医療ソーシャルワーカー (Medical Social Worker)

保健・医療の分野で働く国家資格(社会福祉士・精神保健福祉士)を持った専門職

前号に引き続き **MSW** について紹介させていただきます。

病棟別退院支援 カンファレンス (週1回)

退院支援の必要な患者を入院早期に抽出し、病棟と連携して関わることで退院後も安心して生活ができるよう支援、調整につなげます。



患者、家族との面談

外来や入院中の相談対応をしています。病室へMSWが向く場合や直接、連携室を訪ねて来られる方もおられます。相談者の思いをお聞きし、制度やサービスについての情報提供や支援につながるお手伝いをしています。



認知症ケアチームでの回診 (毎週木曜日)

認知症によって治療や入院生活に影響が見込まれる患者に対して、認知症症状悪化やせん妄発症を予防し、最善の治療を受け、安心して入院できるよう活動するチームです。



診療科別リハビリ カンファレンス (週1回)

治療方針やリハビリの進捗状況などを確認し患者や家族の希望と照らし合わせて目標設定、変更をおこないます。



地域医療従事者研修会

第6回 感染予防対策について
11月18日 感染管理認定看護師 渡邊 正美

第7回 誤嚥性肺炎について
12月16日 呼吸器内科 柳川 崇

第8回 寝たきりにさせないリハビリのポイント・実際
1月20日 理学・作業療法士、言語聴覚士

第9回 地域医療従事者の健康管理について
2月17日 総合診療科 北條 宣政

毎月第3木曜日、18:00~19:00に開催しています。今年度は感染予防のため、Zoom オンライン研修となっていますので、職場や自宅でお気軽に参加ください。医師、看護師、ケアマネ、介護職員、事務員など、参加した皆さんから毎回、「関心があるテーマだった」、「今後に活用していきたい」などアンケートで多くのご意見をいただいています。申し込み・問い合わせは、地域医療連携室へ。

治療と仕事の両立に
悩んでいませんか

病気のため
治療が必要

仕事を続けようか
迷っている

治療費のことが心配。
傷病手当金や障害年金、
高額療養費など
医療制度について
知りたい

病気のことを
会社にうまく
伝えられない

職場で配慮
してほしい

治療しながら仕事を続けられるよう
島根産業保健総合支援センターが
ご本人・会社をサポートします

島根産業保健総合支援センター ☎0852-59-5801

浜田医療センター 両立支援出張相談窓口

●開設日：12/21(火) 3/15(火)
●時間：13:00~15:00 ●方法：オンライン相談
●対象：患者さん(労働者)、ご家族、職場の方
両立支援促進員(社会保険労務士)が治療と仕事に関する
様々なご相談をお聞かせいたします。窓口：地域医療連携室 浜崎まで



窓口：地域医療連携室 濱崎まで

お気軽にご相談ください。

命を守り育む医師を目指して



研修医だより

初期研修医2年目 貴谷 夏州

(平成31年3月島根大学医学部卒)



浜田地域にお住いの皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。浜田医療センター初期臨床研修医2年目の貴谷 夏州(きたに かしゅう)と申します。

「研修医だより」ということで、私自身の話をさせていただきます。私は小学校、中学、高校と松江で過ごし、大学は島根大学医学部で過ごしました。高校時代は合唱部に所属し、私が幹部をしていた代には全国大会金賞(全国4位)を受賞しました。大学時代は心機一転、新しいことをしてみたいという気持ちもあり弓道部、軽音部に所属し、弓道部では主将も務めさせていただきました。

そして現在は社会人経験も一年半程度の若輩者ではございますが、様々な職種の方々にご助力頂きながら浜田医療センターの一員として働かせていただいております。

今年度は2年目ということで教える側としての機会も増えてくることで教えることの難しさも実感しており、私を指導してくださっている各科の先生方や医療スタッフの方々に改めて感謝を感じています。

浜田は風も心地よく、雪の量は私が過ごしてきた松江や出雲に比べると少なく個人的にもとても過ごしやすい環境であり、人柄も暖かいので初期研修があと半年ほどで終わってしまい、浜田の地を3月に離れてしまうことに対して今の時期から既に幾何かの寂寞の想いがあります。

私は小さいころから気管支喘息を罹患しており、運動後や季節の変わり目が来る度に「息が苦しい」ということ

の辛さに悩まされていました。高校生のころに父方の祖父母、母方の祖母を亡くしてしまい、医師の道を志すことを決めた際に、同時に「呼吸困難の辛さをわかる自分は呼吸困難で苦しむ患者さんの助けに少しでもなりたい」と考えるようになり、呼吸器領域を専攻したいという気持ちになりました。念願が叶い、来年度からは島根大学呼吸器・臨床腫瘍学に入局する予定となっています。コロナ禍の現在では需要が高まっている科であり、まだ終息の兆しも見えないコロナウィルスの蔓延により、来年度以降も多忙の日々は想像するに難くないですが、医師を志す頃から専攻したかった領域であったので診療に携わることができるのが楽しみでもあります。

また、島根大学医学部呼吸器・臨床腫瘍学講座に入局した後は、後期研修医として数年後に再度浜田に来る可能性も高く、次に浜田に来た時に浜田医療センターの診療の助力となれるように出雲で研鑽を積んでいきますので、その際はまた暖かく迎え入れていただけると幸甚です。

結びになりますが、肌寒い季節がまた近づいてきております。何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますよう引き続き尽力していきますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

命を守り育む医師を目指して



研修医だより

初期研修医2年目 須田 翔太

(令和2年3月島根大学医学部卒)



痛感しております。一方で患者様から労いの言葉をいただいた時などは、微力ながらも患者様の治療にさらに貢献できるようになりたいと心が引き締まる思いです。また日々の診療を通して、指導医の先生方からは暖かくも厳しいフィードバックを頂くことができ、それら一つ一つの言葉が自らの成長に繋がっているということを実感しております。浜田にお住まいの皆様、そして医療センターのスタッフの方々の暖かい人間性に触れ、医師としても一人の人間としても成長させていただける魅力的な環境で研修をさせていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

早いもので初期研修開始から1年半が経過し、今年からは後輩研修医も入職してきました。1年前までは右も左もわからない状態でしたが、現在では後輩に指導しなければならない立場となりました。後輩それぞれの努力の様子を見るたびに、自分自身もさらに精進をしなければならないと刺激になります。浜田医療センターでは、知識や技術のアップデートのため日々研修医勉強会を実施し、先輩後輩問わず互いに教え合うことで研鑽を積んでいますが、今後はより深く学ぶための学習方法を模索していきたいと考えています。頼もしい後輩に背中を押されながら、憧れの上級医の先生方に一歩でも近づけるように今後も精進を続けていきたいと思っております。

最後になりましたが、浜田圏域にお住まいの皆様、指導医の先生方、医療スタッフの皆様には感謝してもきれません。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

大長見ダムの紅葉も散り始め、冬の到来も間近となりました。皆様におかれましてはお身体を冷やされませんようご自愛ください。

頬を撫でる風に秋の深まりを感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。初期研修医2年目の須田翔太と申します。

私は島根県出雲市の出身です。生まれも育ちも島根県ですが、高校卒業後に一度東京の工学系の大学に進学しました。そこではロボット分野の研究をしたいと考えておりましたが、自分の本当にやりたいことは生身の人間と関わり合える職業であると考え直し、一念発起して現在の医療の道へ方向転換しました。その後島根大学を2020年春に卒業し、ここ浜田医療センターにて初期研修をさせていただいております。

私は自転車を趣味としており、休日は時間が取れる時には自転車で走りまわっています。浜田に住むようになり感じたのはその自然の豊かさです。10分も自転車を走らせればあっという間に山の中。大自然を堪能することができます。弥栄の有名なうどん屋さんで美味しいうどんに舌鼓をうち、そのまま浜田にある主要なダムを回って走る。急峻な坂道もあり辛くなる場面もありますが、豊かな自然の表情を目の当たりになるととても爽快で、疲れも吹き飛んでしまいます。浜田医療センターのスタッフにも何人か自転車をされている方がおられ、新型コロナウイルスの感染に配慮しながら親睦を深めつつツーリングを楽しんでいます。

研修医として浜田医療センターで働き患者様や医療スタッフと接する中で、病気の治療はもちろんのこと人対人の関わり合いの難しさ、コミュニケーションの大切さを日々

命を守り育む医師を目指して



研修医だより

初期研修医2年目 長谷川 央

(令和2年3月島根大学医学部卒)



朝夕は次第に涼しさを感じるようになりましたが、皆様お健やかにお過ごしのことと存じます。浜田医療センターの研修医2年目長谷川央(はせがわあきら)と申します。この度は研修医だよりで紹介いただけたことと、私の身の上話を少し皆さんに読んでいただきたいと思います。

私は兵庫県神戸市の出身で、中学高校は滝川中高等学校という男子校に通っていました。兄が通っているからという単純な理由で私も入学しましたが、そこで待っていたのは楽しくも哀しい男だらけの生活でした。男子校でよかったことは女性の目が気にならないことです。変に気張らず自由にのびのびとした学生生活を送れました。休み時間は友達と語り合ったり、サッカーをしたり図書館で本を読んだりと…そのような自分に使う時間をたくさんとれました。女性に気を使う時間がなかったことは(まだ恋愛観が未熟だった)私にとってよいことだったと思います。しかし悪かったことは女性との接し方がわからなくなったことです。当時の私は女性に話しかけられようものなら目も合わせず顔を真っ赤にして挙句の果てには小刻みに震えていたのです。そんな状態で急に女性が半数もいる大学生活を送れというほうが無茶な話でした。今振り返ると大学一年生の私は黒歴史そのものでした。

島根大学医学部に入学し、初めは学校生活もままならない状態でしたが、次第に医学部特有の勉学の忙しさ、面白さが私の女性への意識を和らげてくれました。医学はどの診療科の勉強も興味深く、できることなら全部の診療科を専攻したいと思ったこともあります。そして最終的に私が一番やってみたいと感じたのがロボット手術でし

た。今思えば医学部入学前からロボット手術は何となくかっこいい、というぼんやりとしたイメージを持っていました。5、6年のポリクリでその夢を目の当たりにし、今の自分にそれを扱える選択肢があるという状況でその道を選ばない理由はありませんでした。ロボット手術を行える診療科の中で特に興味を持ったのが泌尿器科です。ロボット手術を先駆的に取り入れており手術件数も多く、膀胱鏡・開腹・腹腔鏡といった手術のレパートリーも多い、また外科内科両方の側面を持ち合わせているという部分に惹かれました。あとは今まで私が出会った泌尿器科の先生方は朗らかで余裕のある楽しそうな先生が多かったというのも憧れる理由となりました。

現在は研修医二年目として様々な診療科をローテーションさせていただき自分の志す診療科以外の知識を学んでいるところです。ある時、上級医に「研修医はいなくても仕事は回る」と言われたことがあります。それにより私は研修医とはどのような存在かを考えさせられました。研修医とは「自分の力量を謙虚に把握し、できることを少しずつ増やしていく過程で誰かの役に立つ。そして自分の成長は自分一人の努力の成果なのではなく、必ず上の先生方の時間を削りご指導いただいた上に成り立っているものだ」という自覚を持つべきだと考えました。常日頃から周囲の方々への感謝を忘れずに精進していきたいと思います。

最後になりましたが拙い文章にも関わらず、ここまで読んでいただきありがとうございます。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期でございますので、お身体を崩されぬようご自愛ください。

命を守り育む医師を目指して



研修医だより

初期研修医2年目 波多野 由依

(令和2年3月島根大学医学部卒)

毎に秋が深まり、朝晩は涼しくなってきましたが浜田市の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

研修医だよりを担当させていただきます初期研修医2年目の波多野由依と申します。早速ですが、軽く自己紹介をさせていただきます。

私は島根県出身で、小学校から高校までとさらに大学も島根大学へ入学したため生まれてからずっとこの島根県で暮らしてきました。そして昨年の4月から浜田医療センターで初期研修医として研修をさせていただいております。24年間島根から出たことはなかったのですが、浜田市には住んだことがなく、昨年の3月は社会に出る不安と新生活に不安を覚えながら引っ越し作業をしたのを覚えています。学生時代に浜田医療センターに実習で来させていただいた際に医療センターの指導医の先生方は指導熱心で、当時の研修医の先生方が楽しそうに研修していたのもあり、浜田医療センターで研修させていただくことに決めました。

私の代の同期は男子5人女子1人でしたので女子1人であることに不安を覚えながらの研修スタートとなりましたが、同期はみんな気さくで互いに切磋琢磨しながら一緒に研修生活を過ごしていくうちに日々の研修の小さな悩みや出来事など色々話ができるようになっていきました。

早いもので研修も1年半が過ぎようとしており、初期研修医として浜田医療センターで過ごすのもあと半年となりました。学生時代に感じた医療センターの魅力は実際に研



修医になっても魅力的なままで、指導医の先生方は熱心に指導してくださり、自分がやりたいと思うことは全力でサポートしてくださる方たちばかりで日々やりがいを感じながら研修生活を過ごしています。

また、いろいろな患者様に関わらせていただくことができ、その度に自分の未熟さ・無力さなどを感じながらも今目の前で苦しんでおられる患者様に何が必要なのか、どんな声かけが必要なのかなど自分なりに考えながら行動してきた日々は私の今後の医師としての基盤となっていくと思っております。

浜田医療センターで医師としてのスタートを切り、素晴らしい指導医の先生やコメディカルの方、病院スタッフの方、そして浜田市の皆様に支えられながら研修できたことを心より幸運に思っております。

来年度からは大学の循環器内科で働くことになると思いますが、もし医療センターに戻って来ることがあれば、その時は全力で皆様のために努力していく所存ですのでその時はまたよろしく願い申し上げます。ここまで拙い文章におつきあいいただき誠にありがとうございました。

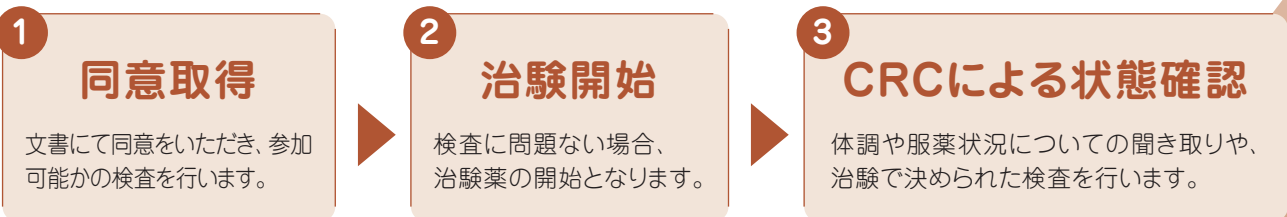
最後になりますが、コロナ禍で先の見えない状況下での生活が1日も早く収束へ向かいますことと、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

治験に参加しませんか？ と言われたら — 治験管理室 —

突然、「治験に参加しませんか」と言われたら、皆様はどう思われるでしょうか？
『治験って聞いたこともないし、よくわからないから参加するのはやめておく…』と敬遠される方がほとんどでしょうか？治験に参加するかどうかは、個人の意思で決定されるものです。
ですが私たちは「くすり」を必要としている人へ届けるために、『よくわからないから…』という理由で敬遠されるのを少しでも減らしたいと思っています。
今回は実際に参加したら、どのような流れで治験が進んでいくのかを、お話させていただきます。

現在当院では患者さんにご協力いただく第Ⅱ相治験と第Ⅲ相治験を循環器内科にて4治験おこなっており、40名程度の患者さんにご協力いただいています。

治験参加のおおまかな流れは図にあるように①から始まり、治験終了まで③から⑥を繰り返します。



Q CRCってなあに？

A 治験に関する専門知識を持った薬剤師や看護師などのスタッフのことをCRC(臨床研究コーディネーター)といいます。治験患者さんの一番身近な存在として、体調不良の相談、受診時の診察や検査への同行など治験参加中に患者さんが安心・安全に過ごしていただけるようにサポートしています。また治験参加中の患者さんと医師や医療スタッフの橋渡し役として日々の業務を行っています。



Q 治験は誰でも参加できるの？

A 誰でも治験に参加できるわけではありません。治験にもよりますが、30～50項目の参加基準があり、すべてを満たす方しか参加できません。多くの基準を満たしたうえで、担当医が治験に参加すると良い効果が得られるかもしれないと判断した患者さんへお声をかけをします。断ってもその後の診察には影響ありません。



4

診察

通常の診察に加え、治験による影響がないか詳しく診察します。



当院の治験審査委員会の様子

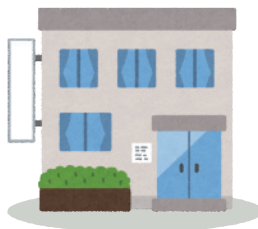
5 治験審査委員会

医療関係者だけでなく、病院と利害関係のない方にも参加していただき、治験が計画書通りに行われているか、また、参加患者さんに不利益なことが起こっていないかを厳しくチェックする治験審査委員会があります。治験スタッフや製薬会社だけでなく、厚生労働省や治験審査委員会など様々な人が治験を見守っています。

6

他院受診

かかりつけ医院へも今まで通り通院できます。情報共有も行います。



7 治験終了

厚生労働省が発売を承認すれば、「くすり」の誕生です。近年当院で実施した治験の結果より、脳梗塞予防の薬の使い方が増えたり、心不全の方に使用できる新薬が発売となっています。



『治験は自分には一生かわりがないもの』と思っている方も大勢おられるでしょうし、実際多くの方がそうだと思います。ですが、そのように思っていた方で、例えば今全世界的な猛威を振っている新型コロナ感染症関連の治験に参加されている方もたくさんおられると思います。『自分には関係ないもの』と切り捨てるのではなく、もし、今後「治験に参加しませんか」と言われたら、この記事を思い出していただき、参加するかしないかを一度立ち止まって考えていただくと幸いです。



看護学校だより

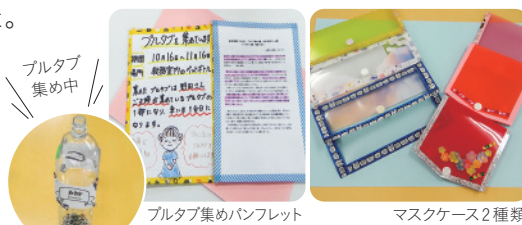
浜田医療センター附属看護学校(はまかん) <https://hamada.hosp.go.jp/hamakan/index.html>

令和3年度 学校祭

テーマ『繋がる～密を作らないで社会とのかかわりを作る～』

テーマの理由

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校祭が中止となりました。学校内では、感染対策として学校行事の規模の縮小、オンライン授業であったり、登校しても常にマスクを着用し密にならないよう学生同士の距離を保つなど、学年間の繋がりやクラス内での学生同士の繋がりが持ちにくい状況にあります。そこで、私たちは学校を「小さな社会」としてとらえ、その中にいる学生同士や教職員と繋がりたいと考えました。加えて、地域社会とも、現在自分たちができる社会貢献活動を通して繋がりたいと思いこのテーマを掲げました。



内容

- (1) 全校生徒、教職員 Zoom を使って自己紹介!
- (2) マスクケースを作って感染予防!
一人が2種類のマスクケースを作成し、一つを他の学生または教職員と交換して、感染予防の意識を高めながら親睦を図る。
- (3) クイズ大会で繋がる! 学校内のこと、教職員のこと、基礎看護学25問

(4) 社会と繋がる!

- プルタブを集めて車いすに交換する活動に参加
浜田市在住の野田さんご夫婦が取り組まれている「プルタブを集めて車いすに交換し、養護老人ホームなどに寄付をする活動(プルタブ800kgで車いす1台に交換できる)」に賛同し、1か月収集してお届けする。目標2kg。
- ペットボトルのキャップをリサイクルし、世界の子供にワクチンを届ける活動に参加
JA島根いわみ中央様がペットボトルのキャップを回収されているので、学内で収集し、持参する。



マスクケース作成中(3年生のクラス)

学校祭を終えて

学校祭運営係 69期生

有馬 里菜 / 榎 佳音 / 森脇 千夏

昨年度は新型コロナウイルス感染問題で中止となりましたので、学校祭自体2年ぶりの開催でした。2年生も1年生も初めての学校祭に不安はありましたが、学生から「コロナ禍の中、学校全体で交流できる機会が無かったので、こういった行事をしてもらえるのは嬉しい」という声が多く聞かれました。良い学校祭にしようと、リーダー会で意見交換し、心から楽しんで当日の準備に取り組む先輩たちの姿がとても頼もしく格好良かったです。

当日は、全学年および先生方の自己紹介から始まりました。感染予防のために zoom 画面を通して行ったので、マスクを取った状態ですることが出来ました。お互いマスク姿しか見たことがなかったため、新鮮な気持ちがありました。クイズ大会では、先生方にモノマネや生歌を披露して頂きクラスみんなで笑いました。素敵な思い出になりました。

普段は先輩方にあまり関わりがなく顔も分からないことがよくありましたが、今回の学校祭を機に先輩方や先生方の顔がわかり、挨拶などがしやすくなりました。全体的にも前より少し親密になった気がします。これからも様々な機会に先輩方や先生方と交流したいです。また、次年度は自分たちが主体になって学校祭を盛り上げたいと思います。

学校祭運営委員 68期生 小林 愛海

今回の学校祭では「繋がる～密を作らないで社会との関わりを作る～」というテーマを掲げました。コロナウイルスの影響により、例年とは違い規模を縮小したものとなりましたが、学生全員が一体となって企画・準備し、全学年・教職員の自己紹介やマスクカバーの作成を行い、学校内という社会での繋がりをつくることができました。また、プルタブ、ペットボトルのキャップを集め、車イスやワクチンの資金の一部となるよう寄付することで、間接的ではありますが、少しでも地域との関わりを持ち、社会貢献につなげることができたと思います。みんな楽しそうで盛り上がっているのを見てとても嬉しかったです。今後も制限された生活が続くと思いますが、学生・教職員で協力して頑張っていきたいと思います。

自治会長 67期生 松本 伸

昨年は新型コロナウイルスの感染防止のために、学校祭を中止せざるを得ませんでした。また、本年も例年開催していた駅北フェスタは中止となりましたが、コロナ禍でも学年のつながり、地域とのつながりができるように、例年とは違う形で工夫した学校祭を行うことができました。例年の学校祭は新学期が始まった4月から準備をしますが、本年はコロナの対策状況を判断しながら直前での開催決定となりました。それにもかかわらず、良い学校祭のテーマを考え、短期間でもこれほどの準備ができ、進行も円滑であったことから、1、2年生の団結力は素晴らしいと感じました。3年生は実習のさなかで疲れもありましたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。看護学生として意義のある学校祭が行えたと思います。ご協力いただいた先生方をはじめ皆さんに感謝申し上げます。

「地域の高齢者の 介護予防について」

浜田市社会福祉協議会での実習
緩和型デイサービスに参加させて
いただきました。



※写真の掲載については参加者の方に了解を得ています。

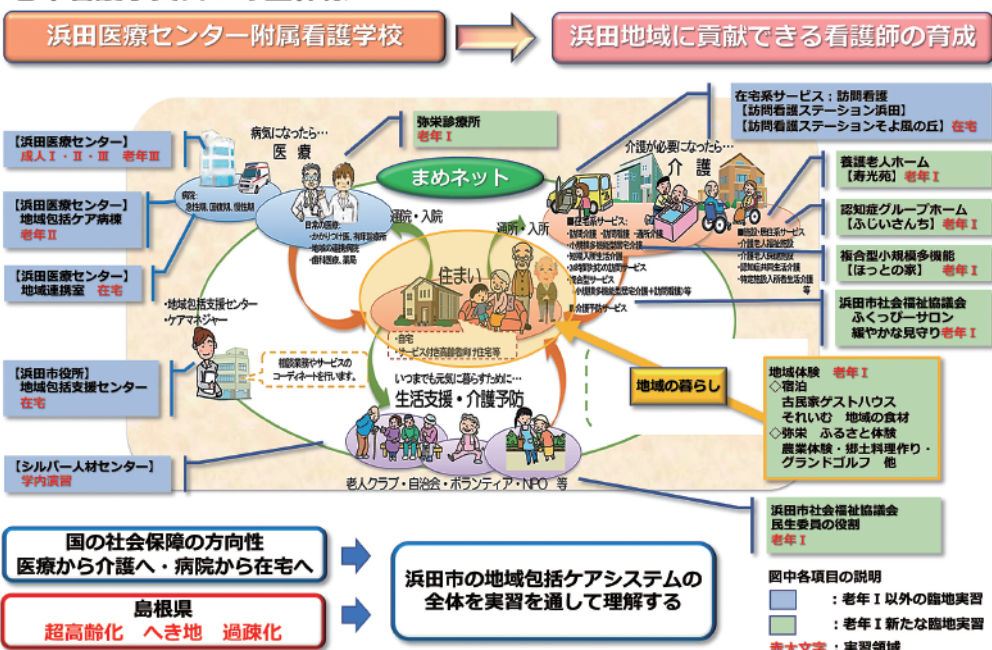
国は2025年を目途として、「住み慣れたところで最後まで」を実現する地域包括ケアシステムの構築を目指しています。また、2022年の看護基礎教育第5次教育カリキュラム改正では「地域」の学習内容が強化されます。これに先駆けて本校では2018年入学の学生から地域包括ケアシステムを教育内容に取り入れました。本年度からは、浜田市の地域包括ケアシ

ムについて学び、地域で暮らす高齢者を知る学習内容とした「老年看護学実習Ⅰ」を開始致しました。島根県の西部地域にある看護学校として、地域の暮らしを大切に、地域で活躍できる看護師を育てていきたいと思えます。地域の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

看護教員一同



老年看護学実習Ⅰの全体像



2022年度入学試験情報

	特別推薦入試(指定校制)	一般推薦・社会人入試	一般入試
出願期間	2021年9月17日(金) ~2021年9月24日(金) 必着	2021年10月18日(月) ~2021年10月26日(火) 必着	2021年12月14日(火) ~2022年1月11日(火)必着
試験日	2021年11月6日(水)	2021年11月10日(水)	2022年1月20日(木)
合格発表	2021年11月13日(水)	2021年11月25日(木)	2022年2月10日(木)
入学手続 締切	2021年11月4日(木)	2021年12月9日(木)	2022年2月18日(金)

受付時間/8:30~17:00(土日祝日・年末年始は除く)

※一般推薦・社会人入試選考にもれた場合は、一般入学試験を受けることができます。
※詳しくは浜田医療センター附属看護学校のホームページをご覧ください。

[お問い合わせ先]

独立行政法人国立病院機構 **浜田医療センター附属看護学校**

〒697-8512 島根県浜田市浅井町777-12 ☎0855-28-7788

- 資料請求は公式ホームページから - <https://hamada.hosp.go.jp/hamakan/index.html>

スマホを
ご利用の方は
こちらから



がん相談 支援センターだより



こんにちは😊 がん相談支援センターです。今回は「がんと就労」をテーマにご紹介します。
国民の2人に1人はがんにかかる時代と言われています。

そのため、近年では働く世代でもがんと診断を受け、治療されている方が多くいらっしゃいます。

医療技術の進歩により、平均入院日数は年々減少していることや、外来通院でがん治療を受けておられる方も多いため、働きながら治療をされている方もいらっしゃいます。

職場環境や仕事に対する価値観は人それぞれですが、仕事と治療の両立となると、さまざまな心配事があるかと思えます。

就労に関して
こんな声
があります



- がんと診断された。仕事は辞めないといけなくなる。これからの生活どうしたらよいか
- 抗がん剤治療をしながら仕事を続けられるだろうか。自信がない
- どれくらい休みを取ったら良いだろうか
- 何か使える制度があるのだろうか、医療費で出費が多いが、仕事ができる状態ではない
- どのように職場に伝えたら良いか分からない

働く世代の多くの方から、働き方や職場への伝え方、休暇のこと、給与のことなどさまざまな不安をお聞きします。大切なことは、がんになっても仕事を続けることを考えてみることです。退職してからでは申請することが難しい制度もあります。

もちろん、気持ちや状況など踏まえて、「仕事を辞める」という選択が必要な場合もあると思いますが、まずは主治医や看護師、職場の上司の方などと、治療と仕事の両立について相談してみてください。仕事と治療の両立についてしっかり考え、がん治療に臨むことは、生活の質をより良くすることにつながるかもしれません。

① 雇用保険について

https://www.hellowork.mhlw.go.jp/insurance/insurance_guide.html

② 傷病手当金について

<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/g3/cat320/sb3170/sbb31710/1950-271/>

③ 高額療養費制度

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuhoken/juuyou/kougakuiryou/index.html

①



②



③



院内各所に配置しております「しまねのがんサポートブック」にはがん患者さんとご家族のための療養情報が記載されていますので、ご覧ください。がん相談支援センターでは、相談内容に応じて他職種と連携し、対応させていただきます。就労に関する冊子もお渡しできますので、お気軽にご相談ください。

【場 所】 2階ラウンジ横 がん相談支援センター

【相談時間】 平日(月～金)／9:00～17:00

【相談方法】 面談または電話(予約・受付不要、相談無料)

【電 話】 0855-28-7096



冬の特別メニュー

栄養管理室

入院されている皆様の食事サービス向上のため、特別メニューとして趣向を凝らしたお料理をご用意させていただいております。

お料理の内容は、旬の食材や地元の特産品を使用し、季節を味わえる内容に仕上げ、御品書きには、使用している食材の栄養成分についてや、それぞれの料理に込めた思いを添えさせていただいております。

季節ごとにメニューを更新し、旬の食材をはじめ、注目を集めている食材や調理法を取り入れていきたいと思っております。ぜひ一度お試しください。

特別メニューは

- **実施日** 夕食 曜日ごとに病棟交代
 ㊦ 3北・3南 ㊧ 4北・4南
 ㊨ 5北・5南・緩和
- **対象** 並菜の患者さん
 ※先着5名様まで(アレルギー等の対応はできません)
- **料金** 別途1,000円(税込み)いただきます。
 ※主治医の許可が必要なためお断りする場合がありますのでご了承ください。
 ※1/1、1/3、2/3、3/3、7/7、9月第三月曜日、12/24は除きます。



献立

- 贅沢オムハヤシ
- 海老と帆立のカナッペ
- 季節のサラダ
- 根菜のミルクスープ
- ガトーショコラ



重要 発熱による年末年始の受診方法について

年末年始(2021年12月29日(水)～2022年1月3日(月))の期間は多くの医療機関が休業となり、

当院の救急外来への発熱患者の受診が多くなれば、非常に混雑することが予想されます。

特に全国で新型コロナウイルス感染症が収束していない現状では全ての来院患者が高いリスクに晒されることとなります。よって発熱による受診方法は以下のとおりとしますので、必ずルールを守っていただきますようお願いいたします。

1

- ・かかりつけ医がない場合
- ・かかりつけ医で受診できない場合
- ・受診すべきか迷う場合

上記のような場合には島根県の健康相談コールセンターへお問い合わせください。

● 島根県健康相談
 コールセンター
 ☎0855-29-5967

2

当院で受診することを希望する方は、必ず事前に電話連絡をお願いします。事前に電話連絡がなく、直接来院された方は診察をお断りする場合がありますのでご了承ください。

● 浜田医療センター ☎0855-25-0505

- ※事前に電話連絡をいただき来院となった方は、公共機関は使わず、自家用車でお越しください。
- ※発熱で受診する場所は駐車場が異なります。場所については、問診票による聞き取りをした際に確認した携帯番号に連絡させていただきます。
- ※その後、職員の指示に従って車内待機をしていただきますが、指示に従っていただけない場合は受診できませんのでご了承ください。

3

来院時は必ずマスクを着用してください。また、お薬手帳がありましたら一緒に持ってきてください。問診票による聞き取りをした際に確認した携帯番号の携帯電話も持参してください。

4

発熱による受付時間は9時から15時の間です。受付時間以外の場合は受診をお断りする場合がありますのでご了承ください。

5

年末年始に限らずご家庭での感染対策の徹底をお願いします。

● 新任医師 …… ①出身大学 ②趣味 ③浜田医療センターについて(または一言)



歯科口腔外科医師
都田 絵梨奈
 (とだ・えりな)

- ①東京歯科大学
- ②温泉めぐり
- ③島根県の地域医療に貢献できるように精一杯努めます。



小児科医師
真玉 千紘
 (またま・ちひろ)

- ①島根大学
- ②読書
- ③異動に伴い、初めて浜田にきました。どんな主訴のお子様でも、一人ひとり丁寧に診察させていただきます。

浜田医療センター 外来診療担当医表

令和3年11月1日現在

診療科	診察室	月	火	水	木	金	備考
総合診療科	初診	大國 典子	大谷 はづき	北條 宣政	上野 伸行	松田 花子	
	再診	—	松田 花子	—	—	北條 宣政	
血液・腫瘍内科		—	島根大学より ^{※1}	—	島根大学より ^{※2}	島根大学より ^{※2}	※1 診療時間 9:30~ ※2 隔週(診療時間 9:30~) 電話にてお問い合わせください
腎臓内科		岩下 裕 ^{※1}	岩下 裕 ^{※2}	星野 祐輝 ^{※1}	担当医 ^{※1,3}	担当医 ^{※2}	※ すべて予約制 ※1 診療時間 9:30~12:30 ※2 紹介患者のみ ※3 初診は紹介患者のみ ※4 診療時間 14:00~
特殊外来		シヤント外来 ^{※4}	シヤント外来 ^{※4}	—	—	—	
内分泌・代謝内科		担当医 [※]	—	—	島根大学より	—	※担当医 大谷はづき(隔週)・島根大学より(隔週)
呼吸器内科	1診	御手洗 裕紀 ^{※1}	柳川 崇	島根大学より ^{※2}	柳川 崇	柳川 崇 ^{※1}	※1 初診は紹介患者のみ
	2診	—	島根大学より	—	御手洗 裕紀 ^{※1}	—	※2 再診のみ
脳神経内科		—	島根大学より	—	—	木谷 光博 [※]	※ 午後のみ
消化器内科	初診	末光 信介	生田 幸広	齋藤 幸	角 昇平	田部 諒	
	再診	田部 諒	末光 信介	角 昇平	齋藤 幸	生田 幸広	
循環器内科	初診	三浦 重禎 [※]	特殊検査日 (休診)	松田 晋 [※]	特殊検査日 (休診)	明石晋太郎 [※]	※ 紹介患者のみ
	再診	松田 晋	—	明石晋太郎	—	飯田 博	
午後外来		ペースメーカー外来	—	失神外来	—	三浦 重禎	
小児科	初診	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	外来担当医 齋藤恭子・真玉千紘
	再診	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	※1 (1才以上 診療時間 10:00~) (1才未満 診療時間 13:30~)
午前予約外来		—	予防接種 ^{※1}	—	—	—	※2 (診療時間 13:00~) 完全予約制
午後予約外来		フォローアップ外来 (再診)	予防接種 ^{※1}	フォローアップ外来 (再診)	フォローアップ外来 (再診)	1か月健診 ^{※2}	※3 毎月第1・第3木曜日 完全予約制 ※4 毎月第3水曜日 完全予約制
特殊外来		—	—	—	内分泌外来 ^{※3}	—	
		—	—	神経外来 ^{※4}	—	—	
外科	1診	栗栖 泰郎	栗栖 泰郎	石黒 諒	渡部 裕志	高橋 節	
	2診	—	永井 聡	—	永井 聡 ^{※1}	—	※1 予約のみ ※2 診療時間 9:00~11:00
午後・特殊外来		—	—	—	ストーマ外来 ^{※2}	—	
乳腺科		吉川 和明 ^{※1}	—	鳥取大学より ^{※1,2}	—	—	※1 予約のみ ※2 第1・第3・第5水曜日
整形外科	1診	渡辺 洋平	柿丸 裕之	手術日	柿丸 裕之 (管椎外来)	手術日	
	2診	板脇 一樹	奈須 友裕	—	渡辺 洋平	—	
	3診	—	—	—	担当医	—	
関節リウマチ外来		—	近藤 正宏 [※]	—	—	—	※ 隔週火曜日 紹介患者のみ
形成外科		担当医 [※]	—	—	—	—	※ 担当医 松江日赤医師・島根大学医師 ※ 毎週月曜日(診療時間9:30~)
脳神経外科		加川 隆登 [※]	手術日(休診)	木村 麗新 [※]	—	—	※ 初診は紹介患者のみ
呼吸器外科		小川 正男	手術・特殊検査 (休診)	小川 正男	手術・特殊検査 (休診)	小川 正男	
心臓血管外科		白谷 卓	手術日(休診)	池田 陽祐	手術日(休診)	白谷 卓	
皮膚科		進藤 真久	進藤 真久	手術・特殊検査 (休診)	進藤 真久	進藤 真久	
泌尿器科		手術日(休診)	盛谷 直之	盛谷 直之	盛谷 直之	担当医	
産婦人科	1診	小林 正幸	折田 剛志	齋藤 光	折田 剛志	小林 正幸	※1 診療時間 9:00~11:00
	2診	折田 剛志	齋藤 光	小林 正幸	齋藤 光	齋藤 光	※2 診療時間 9:00~12:00 ※3 診療時間 13:30~14:30 ※4 診察時間 11:30~12:00, 13:30~15:30 ※5 診療時間 13:00~14:30 ※6 診療時間 13:00~15:00
午後外来		—	乳房ケア外来 ^{※1}	乳房ケア外来 ^{※1}	乳房ケア外来 ^{※2}	乳房ケア外来 ^{※2}	
午後外来		超音波外来 ^{※3}	産後2週間健診 ^{※4}	産後2週間健診 ^{※4}	助産師外来 ^{※5}	産褥外来 ^{※6}	
眼科		井上真知子	手術日(休診)	井上真知子 [※]	井上真知子	井上真知子	※ 毎週水曜日(診療時間9:00~)
耳鼻咽喉科		—	鳥取大学より ^{※1}	—	—	鳥取大学より ^{※1}	※1 診療時間 8:30~11:00 初診は紹介患者のみ
午後外来		鳥取大学より ^{※2}	—	—	鳥取大学より ^{※2}	—	※2 受付時間 13:00~15:30 診察時間 13:00~15:30
放射線科		吉田弘太郎	特殊検査日 (休診)	特殊検査日 (休診)	特殊検査日 (休診)	吉田弘太郎	
緩和ケア外来		—	担当医 [※]	—	—	—	※ 診療時間 13:30~15:00
リハビリテーション科		—	—	—	—	—	入院患者のみ
麻酔科		担当医 [※]	担当医 [※]	—	担当医 [※]	—	※ 診療時間 9:30~ 術前診療のみ
歯科口腔外科		都田絵梨奈 [※]	都田絵梨奈 [※]	手術日	都田絵梨奈 [※]	都田絵梨奈 [※]	※ 初診は紹介患者のみ

診療受付時間／午前8時15分～午前11時00分(再来受付機は午前8時より稼働)

原則予約制

- ★ 紹介状をお持ちの方は地域医療連携室を通して予約をお願いします。
- ★ ご予約がない場合は、来院日に診療が受けられない場合もございますのでご了承ください。

冷え込む季節になってきました。新型コロナウイルスが流行し、もうすぐ2年となります。ワクチン接種も進むにつれ、感染者も減少傾向であり早い収束を願うばかりです。今一度基本の手洗い・うがいを忘れずに皆さん体調に十分気をつけ過ごしていきましょう。(J・K)

